



因幡のくにの夢づくり

とのまる通信

第14号
2003・10・1

発行：国土交通省中国地方整備局 設営ダム工事事務所 鳥取県岩美郡因幡町宮下1221 TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612 http://www.cgr.mlit.go.jp/tono/index.html

あそこが
この写真の
場所だて！



情報提供者の1人で、木原にお住まいの岡本哲朗さん。

前回の特集「昔の人はえらかった」で掲載した、
写真2点の撮影場所が不明だったため、
誌上で情報提供を呼び掛けたところ、
5人の方から情報が寄せられました。
早速情報提供者にお話を伺い、
現場を案内してもらおうと…
もうそこには木製の橋はなく、
取材一週間前にできた
真新しい鉄骨の橋が架かっていた。
土手に残された昔の橋の残骸を見ながら、
当時のお話を伺った。

あの謎の場所は 殿ダム周辺だった！

発見の決めてはコレ！『茅ん堂』



このような石の
積み方を「六つ巻き」
と言うんだって！
六つ巻きに積むと、中心の石が他
からの圧力に比較的強く、飛び出
しにくくなるんだ！（石工の親方
西村新蔵さんが当時語られた話を、
息子の哲さんから伺った話より。）

昭和11年～14年頃にかけて行なわれた袋川河川改修工事の折の写真と思われる。写真左上に『茅ん堂』が見える事から、場所は下木原橋下流右岸堤
端で、写っている人々は、工事の主だった人々と思われる。[写真提供：山本秋夫さん、情報提供：岡本哲朗さん、岡本徳美さん、西村新蔵さん。]

「工事の人に遊んでもらうたり、家の靴脱ぎ石を敷いてもらうたから、子供心に当時の記憶が残っとるです。」



情報提供者の一人、岡本徳美さん

語りべ：岡本徳美さん

前回(13号)の特集で掲載した写真が、国府町下木原～木原集落であるという情報提供を5人の方(岡本哲朗さん、米山艶子さん、岡本徳美さん、岸本辰美さん、西村昇さん)からいただいた。その中で、A4用紙2枚にわたり手書きで書かれた詳しい説明を、殿ダム工事事務所に持参してくださった岡本徳美さんにお話を伺った。

岡本さんは、木原集落にお住まいで、この工事(袋川河川改修工事)が始まった昭和11年頃に、大茅にあった尋常高等小学校に入学し、その後、工事が完了する3～4年間、この工事をみつめてこられた。当時下請けで現場監督をされていた太田邦平さんが、義理のおじさんにあたる人だったため、通常入れない作業現場や、作業の人が寝泊りする寮に行ったりして、皆にかわいがってもらったため、子供ながらに、当時の楽しい記憶が残っておられたようだ。

工事名：袋川河川改修工事
工期：昭和11年～14年頃
場所：下木原～木原集落
一帯の袋川周辺



今年8月末に完成した下木原橋



現在

下記の写真とほぼ同じ位置から撮影した現在の下木原橋



県道下木原から岩美線下木原橋をバックに、昭和11年頃撮影された、袋川河川改修工事の写真と思われる。【写真提供：山本鉄夫さん、情報提供：岡本徳美さん、西村昇さん。】

昭和初期は、下木原～木原集落も大雨が降るごとに、田んぼが流失し、道路が壊れ、洪水被害に悩まされてきたようだ。そこで、河川改修工事が始まったわけだが、まず別の所に川を作り、川の流れを変えて、工事箇所には水が流れないようにしなければならない。ダンプカーもショベルカーもなかった時代、作業は全て人力。別の川を作るにも、スコップで土を掘り川を作っていた。大きな石は小割氏という職人が、人が運べる大きさに石を割り、藤藁で編んだパイスケという道具で2人がかりで肩でかついで運んだ。また、石を積む石工という職人が、弦を貼り(丁張)、玄翁という道具一つで川石を巧みに積み上げ、美しい護岸を築いていった。

工事の途中(昭和12年)日中戦争が起こり、働き盛りの男性は兵隊にとられ、工事がストップ。翌年戦争が終わり、帰ってきた職人や作業員の人達によって工事が再開。このような状況だったため、下木原～木原集落にかけての河川改修工事は3～4年もの期間を要した。河川改修工事完了後は、洪水被害も少なくなり、大雨が降っても、安心して暮らせるようになったそうだ。



大きな範囲の地図は、5ページに掲載しています。

ダンプカーもショベルカーもない時代、職人さんや近隣集落の男性はもとより、ご婦人方も総出で作業に加わり、護岸を整備していった。



前ページと同じ頃(昭和11年～14年頃)の同工事の写真と思われる。拾石や大茅集落から女性も作業員として働きに出ていた。[写真・情報提供: 米山整子さん]



◀ 茅ん堂の堂内。左手前にある一番大きな石は、上記の工事の折、工事関係者が奉納された石らしい。



下木原橋を渡って徒歩約2分の所にある『茅ん堂』

場所発見の決めてとなった「茅ん堂」は、国府の三堂の一つで耳の病に効くそう。

国府町には木原集落に『茅ん堂』、松尾集落に『土ん堂』、岡益集落に『石堂』があり、この3つが国府の三堂と呼ばれている。

『茅ん堂』はお地蔵様をご本尊として祭られており、「耳の病に靈験あらたかなるものがある」と、因幡一円はもとより、但馬からも参拝者が多くあったそうだ。耳の悪かった人が願開きに持ち寄ったとされる、大小三百個余りもの穴のあいた石が、紐に通され、現在も堂内にかけて渡されている。

5人の情報提供者のおかげで、謎だった場所が判明。将来殿ダム貯水池となる所からすぐ上の集落、下木原～木原だった。現地に行くと、橋は新しく架け替えられていたが、唯一手積みの石垣が一部残っており、当時を偲ぶことができる。あなたも、宝探し気分で、この石垣や茅ん堂を見つけに行ってみませんか!

洪水被害体験談

「殿ダムの石川所長さんはどくらい洪水被害におうた事があるそうまで…。

自家用車は流され、衣類や家具も泥まみれ…。
ちょいと話を聞かせてもらおうや。」

洪水被害の恐ろしさを
身をもって、
体験しました！



殿ダム工事事務所
石川進 所長



洪水のあらまし

石川氏が建設省三次工事事務所に勤務していた昭和47年7月、大雨が中国地方全域に降り、各所で大きな被害をもたらした。特に江の川、馬洗川、西城川の三河川が合流する広島県三次市では、12日未明に馬洗川2箇所にて堤防が壊れた。中国地方全域で床上浸水以上の被災が約40,226世帯、死者94人という大惨事になった。



1階部分が完全に水に浸かっている2階建ての建設省三次工事事務所。昭和47年7月12日7時

11日
夜



当時の様子

7月11日21:00頃、国道54号線の道路巡視に出かけましたが、一部土砂崩落があったため不通となり、午前零時頃事務所へ帰庁。その時、事務所周辺はすでに水につかっており、雨の中をゴムボートに乗せてもらい、寮まで帰りました。



落壊しかけた要屋構。

12日
深夜



独身寮は2階建てで、周囲の家屋より高かったため、近所の人もこの寮に避難されていました。不安と恐怖のため、誰も眠る余裕などありませんでした。そんな折「堤防が切れたぞ!」という怒声が聞こえました!

堤防が壊れて30分程度で、水は寮の1階の天井まで上がり、次々に濁流にのみ込まれる我が家を見た近所の人達の狂声や奇声で、辺りは一時パニック状態になりました。また、近くの牛舎から牛が濁流に流されていました。



1階部分が水に浸かっている民家。昭和47年7月12日朝

12日
朝



重苦しい夜が明けると…水はひいていましたが、辺り一帯へドロとゴミが散乱し、堤防が壊れた箇所に近い2階建ての家は、1階が柱だけという悲惨な状態。町の中は、ずぶぬれになった畳や衣料品、家具などのゴミで道路という道路は通行不能。災害直後、皆が困ったのは、電気・電話が使えない事でした。

洪水被害を実体験し、水はコントロール不能である事を思い知らされました。被害に合う事は、つらく悲しい事ですが、このような過去の被害を基に、現在、河川工事やダム建設などの治水対策を行なっています。

現在建設中の殿ダムは、洪水被害を防ぐ役割を担います。人々が安心して暮らせるよう、今後とも一日も早い完成に向けて努力していきます。

殿ダム周辺 秋の散策マップ

殿ダム建設予定地は、鳥取市内(JR鳥取駅)から車で約30分走った国府町の中山間地にあります。

この国府町は自然豊かで四季折々に美しい町ですが、田畑が黄金色に輝き、山々も薄紅色をさし始める初秋は、万葉のふる里国府町を最も堪能できる季節です。

今回は、秋の国府町を散策しながら、殿ダム周辺へ足を伸ばしていただけるよう、観光スポットやイベント情報を紹介します。町全体が色づく国府町へ一度来てみてください!



今回の特集で紹介した木原と下木原集落。

地酒予約受け付け開始



歴史ある用水路及び棚田の保全を目的に、空にある棚田で酒米を作り、雨滝の名水でオリジナルの地酒を作ろう!と有志の人がチャレンジしています。現在、この新酒の予約受け付け中!

問い合わせ先: 国府町役場産業課
TEL:0857-39-0561



宮滝



雨滝の滝つぼ前にある橋を渡り、中国自然歩道を歩くこと約10分、宮滝と河合谷林道の分岐点にたどりつきます。そこをさらに約15分歩くと、知る人ぞ知る宮滝が現れます。
(撮影: 萩原秀政さん)

給手紙&休憩スポット



旧成器小学校の校舎内で、福田良典氏指導のもと給手紙制作ができます。また、ホットヒと息できる憩いのスペースもありますよ!

吉野そばの館

これ、まぐが打ったそば、おいしいかな!



吉野そばの館周辺は、黄金色の稲穂と、白いそばの花のコントラストが美しい田畑が広がっています。

吉野そばの館…毎週日曜日のみ営業。
そば打ち体験有り。
電話:0857-58-0124

イベント情報

10月11日(土)・12日(日)・13日(月) 梶山古墳壁画一般公開

中国・四国で初の彩色壁画発見となった梶山古墳。通常、文化財保護のため、非公開ですが、毎年この時期に、古墳の奥の彩色壁画が一般公開されます。ぜひ、この機会にご覧ください。

問い合わせ先: 国府町役場教育委員会 TEL:0857-39-0563

10月12日(日) 万葉集朗唱の会

万葉の衣装に身を包み、大伴家持の歌を参加者が個性的に歌う万葉集朗唱の会。見て聞いて楽しめますよ! 会場: 因幡万葉歴史館 伝承館

問い合わせ先: 因幡万葉歴史館 TEL:0857-26-1780

11月1日(土)・2日(日)・3日(月) 万葉のふる里こくふまつり

町をあげての文化祭。菊花展や各種文化系グループの作品展示の他、バザーや露店が並び、一日中楽しめます! 3日は殿ダムコーナーも設置し、会場を一段と盛り上げますよ!(詳しくは裏面の殿ダムニュースをご覧ください。)



とのまる夢風船!

殿ダムの工事現場から専発信!
メッセージをエコ風船に託し、
秋風に飛ばそう!

動く紙芝居『とのまる劇場』の上演や、
その他のイベントも用意しています!
お気軽にお立ち寄りください!

(風船は限定100個です。)

- 日時: 10月19日(日) 午前10:00~11:00頃
- 場所: 国府町拾石、殿ダム建設現場作業所前広場
- 問い合わせ先:

とのまる夢風船!事務局
TEL:0857-58-0001
(中河原郵便局まで)

【※雨天の場合中止します】



11月 1(土) 2(日) 3(月)

「万葉のふる里こくふまつり」開催

毎年恒例、町をあげての文化祭である『万葉のふる里こくふまつり』に今年も殿ダムコーナーを設ける予定です。
楽しいイベント盛りだくさん! 袋川絵画コンクールの表彰式もあるよ! 友達誘って、ぜひ来てね!



クイズに答えて、全問正解すると、楽しいゲームに参加できるよ!



毎年力作が応募される、袋川絵画コンクール表彰式の様子。

- 日時: 11月1日(土)・2日(日)・3日(月)
9:00~17:00 (3日のみ9:00~16:00まで)
【※殿ダムコーナーは3日のみ! 9:00~14:30(予定)】

- 場所: 国府町中央公民館及び因幡万葉歴史館周辺
- 主催: 万葉のふる里こくふまつり実行委員会

お礼

前回(13号)の特集に掲載した写真が、下木原~木原であるという事を電話やハガキで教えてくださった方々は下記の5人です。情報を提供していただき、ありがとうございました。

岡本哲朗さん 米山艶子さん 岡本徳美さん
岸田辰美さん 西村昇さん

殿ダム建設に伴う 移転者ご家族の今を紹介するコーナー

今回の元気がいな!

米山富久さん



新居前にて米山洋子さんと富久さん。

富久さんで3代続く米山家は、86歳の益枝さんを筆頭に3世代8人が暮らす大家族。この度、殿ダム建設に伴ない、母屋や田畑そして山林の大半が水没対象となり、平成9年に拾石から分上^{ぶんじょう}に引っ越された。

昭和38年に鳥取市内から拾石の米山家に嫁がれた妻の洋子さんは、

「日暮れが早い季節(12月)に嫁いだという事もあります。特に拾石は山の高い所にあるもんで、3時頃には日が暮れ、村全体が暗ろうなるです。それを見た時は、えらい所に嫁に来たな~と思いました。また、その年は、雪がものすごく降った年で、自衛隊が来て、雪かきしてくれた事を覚えとります。」と語られた。

「そうそうあの時は1m80cmほど積もって、雪の捨て場がなかったけえなあ! わしが子供の頃は、雪が降ったら、拾石の坂道を足で踏み固めて、裏山から伐ってきた竹でスキーやそりを作ってよ~遊んだな~。夏は川で泳いだり、魚捕って遊んだしよお~。拾石は空気がきれいで、静かで、子供の遊び場がようけありました…。今こうして村を出てみて、山がの良さがよ~わかります。」と語られた富久さん。

移転されて6年経つが、ほぼ毎日のように拾石の様子を見に上がられている富久さん。集落は消えてなくなっても、心に残る思い出はその場に立てば、即座によみがえり一生消える事はない。



お問い合わせ & お便りのあて先

国土交通省 中国地方整備局 殿ダム工事事務所
とのまる通信編集部
〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1221
TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612